

令和5年度 第1回 国指定史跡東京湾要塞跡整備委員会 議 事 録（抄録）

日 時 令和5年（2023年）6月30日（金）12時30分～15時00分

場 所 猿島砲台跡

参加者

委員	後藤 治（委員長）	：工学院大学理事長 工学院大学総合研究所教授
	荒木良子	：市民公募
	大内田史郎	：工学院大学 建築学部建築デザイン学科教授
	小野田滋	：公益財団法人鉄道総合技術研究所 情報管理部 担当部長
	蒲谷衛一	：市民公募
	松井敏也	：筑波大学 世界遺産専攻 保存科学 教授
オブザーバー	富永樹之	：神奈川県教育委員会 教育局生涯学習部文化遺産課副主幹
事務局	古谷久乃	（横須賀市教育委員会教育総務部長）
	柿原美奈、川本真由美、磯口健太郎	（横須賀市教育委員会教育総務部生涯学習課）
	千葉聡子	（横須賀市教育委員会事務局係長 環境政策部公園建設課係長）

欠 席

委員	鈴木 淳	：東京大学大学院人文社会系研究科 教授
----	------	---------------------

1. 現地視察

《切通し部》

○事務局から状況説明

- ・新しい危険個所の発生について。
- ・壁面は、公園部局で来年度現況測量を行い断面図の作成をする予定であること。
- ・史跡指定地内の中心部へ入る唯一の動線であるため、対策の優先順位を上げたい。

蒲谷委員：切通し東側の壁面は昨年小崩落があった。それ以外にも小崩落は割と頻回に起こる。

小野田委員：崩落への対策としてはH鋼などでフレームを組んでトンネルにする方法がある。

後藤委員長：ネットをかけてあるが、樹木が倒れた場合にはネットの中で崩落がもたない。

樹木は伐採をしたほうが良い。

《第二砲台棲息掩蔽部南側階段》

○視察の最中に階段踏面面の石材が植生に押され、外れかかっていることを新たに確認した。

後藤委員長：もうすぐ押し出されて落ちてくるだろう。植生や土を除去した後は、一度動いているので、踏面面の石材を固定する必要がある。

《第二砲台累道石積擁壁笠石》

○事務局から状況説明

- ・樹木の生長に伴い、笠石が前へ押し出され、1個外したがその続きが外せないこと。

- ・石積みの専門である国士舘大学の橋本先生と文化財関連の石垣の工事を行う業者から提案を受けた工法の概要について。

《煉瓦造隧道》

○事務局から状況説明

- ・今年度発注を予定する修理工事の基本設計の検討事項について。
- ・排水機能の整備は、現行の路面の排水経路の再整備を含めた検討としたいと考えていること。

小野田委員：トンネルについては基本設計前に現状確認の調査を行ったほうが良い。

後藤委員長：（弾薬元庫妻壁）鉄骨で組むのは大変。木製が良いのではないか。崩落しかかった状態をそのままに残すことは非常に難しい。ある程度施工しやすいよう、部分的に撤去することも方法としてあり得る。

松井委員：（弾薬元庫妻壁）木枠は崩壊するレンガ壁の重量に耐えるためではなく、地震の時などの最初のズレを抑え込むためと考えるほうが良い。

事務局：（弾薬元庫妻壁）修理後も引き続き非公開ゾーンとしたい。見た目にはこだわらず、吹き抜け空間ごとモルタルで充填もありえるのか。基本設計で検討したい。

2. 審議（管理棟にて）

松井委員：時々刻々と整備工事の優先順位が入れ替わっていく。あらかじめ優先順位をつける際の基準を明文化しておいてはどうか？

事務局：明文化しておくことは必要と思う。整理したい。

後藤委員長：当初のものであるからといって、全てに対して保護、整備しては無駄にお金を費やすことになることもある。猿島の場合は『砲台』としての性格を示す箇所を優先するのはやむを得ない。

荒木委員：木の影響が大きいように感じた。樹木医に診てもらっているか？

事務局：平成 30 年度に毎木調査を実施し危険度判定をした、その結果に基づき 3 年かけて危険樹木を伐採したが、次の危険度であった樹木が成長してきている。

荒木委員：樹木の調査と対応は定期的にすべきと考える。

事務局：公園と今後の方針を検討し、次回ご報告する。

松井委員：城の石垣にアンカーを打つことはあるが、アンカーは一度打ってしまうと二度と戻せない。他のやり方がないか検討を。また、ブラフ積みまでアンカーを通す案では、笠石を元の位置に戻せなくなるのではないか。

後藤委員長：アンカーを打ったところから水が入る例もある。（笠石だけでなく）ブラフ積みの部分まで穿孔してアンカーを通すのはお勧めできない。

事務局：工法は再度検討を行い、また次回提案を行う。

=== 14 時 45 分猿島発便で撤収、三笠栈橋着後解散 ===

3. 次回に向けての検討事項

①危険箇所優先順位の考え方

②樹木の管理方針

③笠石緊急対応の工法

4. その他

当日確認した、第2砲台塁道の階段踏築面の石材が植生に押され、外れかかっている箇所については、次の緊急対応を行った。

日 時 令和5年7月5日(水) 9時30分～12時

施工者 猿島公園指定管理者から2名

立ち合い 公園管理課 福田、生涯学習課 川本

方 法 流出土を除去後、人力で石を押し込んだ。



ずれていた階段の石（石のサイズは、w138cm×h20cm×d37cm）



復旧前（下から）



復旧後（下から）



復旧前（上から、隙間 約 13cm）



復旧後（上から、隙間 約 3 cm）